

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570807859		
法人名	有限会社 ふあいん		
事業所名	グループホーム ひかり		
所在地	秋田県大仙市藤木字東八圭21-1		
自己評価作成日	平成29年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成30年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりを大切に、地域行事や活動に積極的に参加し、顔の見える関係づくりや交流により、地域のニーズに応えたいと考えています。地域と共助しながら、利用者と職員が、また利用者同士が家族のような馴染みの関係を築き、一人ひとりの体調やペースに合わせて、楽しく、和やかに暮らし続けられるよう努めております。また、気づきのケアを重視し、保持する能力を活かす工夫を常に考え支援しています。ニーズは個々に違い変化していきます。その都度、本人、ご家族の意思を確認し、話し合いを重ね、共に支える関係性を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員と利用者との会話の様子や管理者との対話から、利用者が安心して暮らせるよう理念に基づいた支援が職員の共通認識として行われていることを窺うことができます。利用者の心身の状態を把握し、家族の協力を得ることで穏やかに生活できていることにも繋がっています。また、認知症ケアについて地域向けの勉強会や認知症カフェを定期的に開催してこれまで積み重ねてきた事業所の力が活かされ、地域の中の事業所として機能する取り組みを積極的に進めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はリビングなどの共有スペースに提示し、職員1人1人が内容を把握し、理念に基づいたサービスを実践している。	カンファレンスや申し送りで利用者一人ひとりの状態を把握し、その人に合ったケアに取り組む事で理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校の文化祭や町内のお祭り等、昔からの風習や行事などを通し地域の方々と交流を図っている。町内会の一員として協力している。	町内のお祭りには準備段階から関わり、地域の清掃活動にも積極的に参加しています。災害時には地域の避難場所ともなっており、相互に協力し合う関係が築かれています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	近所の高齢者の見守りや、認知症カフェ(かたるべ)や認知症なんでも相談室で認知症ケアについての啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容や研修、利用状況などの報告を行い、またテーマを決め話し合い、委員や利用者家族等からの意見や質問を参考にサービスの向上に努めている。	状況報告に対して質疑応答が行われ、そこでの意見をサービスの向上に活かせるよう努めています。	会議を具体的に運営に活かすために双方向的な意見交換ができる進行の仕方に工夫すると共に、後日誰が読んでもわかる記録の仕方の工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者主催の研修会等に積極的に参加し、顔の見える関係を築き協力体制がとりやすくなるように努めている。	グループホーム連絡協議会事務局としての関わりがある他、関係部署と積極的に協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束虐待防止委員会を設け、各事業所ごとに研修を行いスタッフ全員が正しく理解するよう取り組んでいる。	内外の研修を通じて職員の理解を深め、職員間では対応を注意し合う等、日々のケアの中で身体拘束をしない取り組みが行われています。利用者が安心できる言葉遣いで対応することによって穏やかに生活できています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やスタッフミーティングを通じて、全職員への理解を図っている。日頃から利用者の状態観察を心がけ、心理的、言葉の虐待にも注意するよう話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修やミーティングを通じて、高齢者の権利擁護、成年後見制度について学び、知識向上に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約内容、重要事項の説明の他、ケアに関する考え方や実際の取り組み等を出来る限り丁寧に分かり易く説明し、十分に理解納得したうえで記名をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等での意見、議事内容を閲覧し、全スタッフへ確認と理解を図っている。また玄関に意見箱を設置したり、手紙や電話にて家族からの意見、要望を確認している。意見要望に対してはミーティングで話し合い反映させている。	家族からの意見を活かす取り組みが行われています。意見や要望が出た場合には対応を検討し、改善に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りの際、スタッフからの意見、提案を出してもらい運営に反映させている。また、日頃からスタッフとのコミュニケーションを通じて意見を聞き、職員誰もが言いやすい環境に努めている。	職員からの意見や提案は随時あり、「まずやってみよう」と取り組み、前向きな発言が日々のケアに活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人から仕事への取り組み、考え等を聞き、職員にとって就業上の問題がないか等確認し、働きやすい職場となるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の経験やスキル状況にあった研修を受ける機会を確保し、知識向上を図っている。また、本人や主任に技量や不安事項等を聞き取り、双方が支障なく育成できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業者連絡会や地域ケア従事者連絡協議会へ参加して、ネットワーク作りや相互訪問時に機会をもち情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、本人の安心できる場所で面接を行い、本人の不安や困っていることに耳を傾けている。これまでの生活歴や趣味嗜好を伺い、なるべく早い段階で安心できる関係が作れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや、これまでの状況(苦労)を聞き家族にとって話しやすい関係作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、利用者と職員は生活を共にし、自然体で支え合う関係を大事にしている。また、家庭的な雰囲気と一緒に楽しく、ゆっくりとを基に、和やかな暮らしができるよう心掛けている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所時や電話の際には日々の生活状況や健康状態を伝える等、情報共有しながら一緒に支えていけるように配慮している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの人間関係や、社会性への維持継続の為に子供、兄弟、親戚、知人等、できるだけ馴染みの人や場所に関わる事ができるように努めている。	家族の協力も得ながらこれまでの生活習慣や継続的な交流の支援に努めています。ユニット間の連携が図られていることも利用者と職員の良い関係づくりに役立っています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、職員間で情報の共有に努めている。また、レクレーションや作業時に仲介に入り、利用者同士が支え合う雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了された後も家族と連絡をとったり、立ち寄って頂いたり、転居先の施設での状況を聞き取りしたり等、その後の相談にも応じられるように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での言動から好みや要望等の把握に努めている。また思いを汲み取ることができない場合は、ご家族と情報交換し、本人が好まれるような暮らしが出来るように努めている。	日々の関わりの中で見せる表情や動作から利用者の思いに気付けるようにしています。入浴時や居室で聞いた話も記録に残し、連絡ノートや申し送りで情報を共有しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や本人との会話の中から、生きがいや楽しみ等をキャッチできるように努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアや生活習慣等の観察を通して、心身の状態や有する能力の把握に努め、ケアに反映させている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや希望を汲み取り、ケアカンファレンスにてモニタリングを行い、スタッフ間で意見やアイデアを出し合い介護計画の見直しや作成に活かしている。	日々の記録がアセスメントに活かされ、担当職員を中心にモニタリングを行って利用者、家族の意向が反映された介護計画となるよう全職員で協議しながら見直しを行っています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子等を日誌や個別介護記録に記録し、かつ職員間での申し送りを行い、スタッフ全員が情報共有できるように努めている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や運営推進会議を通じて情報交換を行い、地域との交流やその中で楽しむ事ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪診、訪看と年2回の歯科健診を行っており、体調不良の際はかかりつけ医やかかりつけ薬局と連携しながら適切な支援をしている。	個々の希望や状況に沿って適切な支援が行われており、家族とも情報を共有しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月の定期訪問の際には、事前に情報を提供した上で、訪問時に相談や助言を受けている。薬剤師による定期訪問もあり、薬剤師からの助言も受けている。		
30		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は管理者等が病院に行き、体調やADL等の情報提供を行っている。またスムーズに退院できるよう、家族、主治医とこまめに連携を図っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ターミナル方針について家族に説明を行い、医療機関、訪問看護、家族間の調整支援を行い、本人、家族の希望に沿う取り組みをしている。	医療連携されており、希望に沿って取り組んでいます。職員は方針を共有し、家族、専門職と連携して看取りが行われています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的な救命救急の講習を受講している。急変時に適切な対応がとれるように心臓マッサージ、人工呼吸、AEDの使用法を習得して事故発生に備えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は災害時のマニュアルを理解していると共に、年2回の避難訓練を実施しうち1回は消防署立会いの下指導を受けている。また、災害時には地域の方へも協力をお願いし、避難訓練への参加も呼び掛けている。	避難場所への移動訓練を行い、食料、飲料水も備蓄しています。地域の避難場所となっており、地域ぐるみで災害に備えた取り組みが行われています。	法人間及び近隣の協力体制が図られていますが、課題が多いことも認識されていますので安全な避難のための対策と訓練の積み重ねを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法に基づき、情報の取り扱いには十分注意を払っている。また一人ひとりのプライバシーにも配慮しながら、その方の尊厳を大事にしている。	その人の心理状態に配慮する等、言葉遣いを含め、一人ひとりに合った対応をしています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り表情や態度から希望等の理解に努めている。飲食や作業、レクリエーション参加等、都度利用者様の希望をうかがい決定している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れを目安に、一人ひとりの心身の状態に合わせ常に利用者のペースで支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや意向を十分に反映できるように本人と話しながら、なるべく自分で決めていただいている。季節や場に応じた衣類等のアドバイスをしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえから盛り付け、食器拭きなど個々の力に合わせ食事を楽しんでいただけるよう支援している。	利用者にとって食事が楽しみの一つであり、畑の野菜や季節の食材で昔ながらのおかずをつくったりその時季に合ったおやつや行事食を提供し、できることを一緒に行って力の維持や意欲の向上に繋げています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量のチェック表に基づき、一人ひとりのケア記録用紙に記録している。一人ひとりの嗜好や好みも配慮している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや義歯洗浄の見守りや介助を利用者の状態や能力に応じて行っている。年2回の歯科健診にて、口腔内のトラブル予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンをチェックシートを用いてスタッフ全員が把握できるようにし、さりげなく誘導、介助をおこなっている。またできる限り、自分で行える様に残存機能に応じた介助を行っている。	個々の状態を把握して機能の維持に繋げる等、チェック表を活用した取り組みが行われています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ビデオ体操や運動を取り入れたレクレーションや繊維質や乳製品が多く摂取できる献立の工夫、水分摂取の促し、それに基づき性状を含め排便状況を確認し、自排便の取り組みをしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望や健康状態を確認したうえで、出来る限り希望にそえるよう、日にちや順番、湯温の調整を行っている。また、いつでも対応できるように準備している。	3日に1回程度の入浴となっており、希望に応じた柔軟な支援が行われています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが安心して眠れるよう室内環境作りに努め、安眠できない方には、温かい飲み物の提供や会話、スキンシップを図り不安感を取り除く工夫も行っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の変更時は、スタッフ全員で情報共有し、症状の変化や薬の効用等、状態観察を行い、すぐに医療機関に連携できるよう努めている。また薬の内容を理解し、薬剤師や看護師に助言を頂いている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昼食準備や後片付けなどの家事作業を行うことで、役割意識を持って頂いている。また、定期的にドライブやレクレーションを通じて、楽しみや喜びを持てるように支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調や希望を考慮し、季節に応じた外出支援を行っている。地域の行事参加や、ドライブ等で心身の活性化を図れるよう努めている。	散歩やドライブ等で外出するのは勿論のこと、職員が買い物に誘ったり、用事をつくってユニット間を行き来する等してホームに閉じこもらない工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を本人が所有し、買い物等の支払いを行っている方もいる。管理力がない方は、預り金の中から必要分を渡し、買い物をしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の自主性を尊重し、安心感を得ていただくために、要望があれば事前に家族の承諾をとったうえで、家族や知人へ電話をかけた後、外部との関係が切れないよう支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光、室温、湿度の調整に気を付け、誰もが居心地良く過ごせるような工夫をしている。また、季節に合ったものを飾り付け季節感を出し、一人ひとりが心地よく感じていただけるような空間作りの工夫と配慮を行っている。	毎朝窓を開け放して空気の入れ替えを行い、床暖房による乾燥を防ぐために状況に応じた対策が行われています。玄関ホールの職員が考えた飾り付けで季節がわかる配慮がみられます。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時間帯によってそれぞれの居室でくつろがれたり、ホールでお茶や他者との会話を楽しんだり、好きなところで、時間を過ごせるようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個性を尊重し馴染みの物や、その方にとっての必需品等を持ち込んで、その人らしい心地よい空間となるよう配慮している。	利用者が自分の家として過ごせるよう家族も協力して生活環境をつくっています。遺影や位牌を持ち込む等、その人毎の生活の場をつくっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る力を把握し、補助器具の使用や、トイレ、居室等に表札を貼り混乱や障害がないよう工夫し、安全に配慮しながら自立支援を行っている。		